臨済宗妙心寺派臨濤山（りんこさん）　第16号　令和8年10月25日発行

大仙寺椿通信



令和八年十月十五日　粥座後　　山主　慶州　合掌

皆様　こんにちは。お元気ですか？この椿通信も十六号目になりました　お付き合い頂きありがとうございます。今回は前号からの続きインド仏跡参拝のお話です。お釈迦様が説法をされていた場所『ラジギールにある霊鷲山　』です。

二十五年前に訪れた時には、道も険しく舗装もされていませんでしたが　レンガで舗装された道で途中階段になっていて歩きやすく　暗い明け方の道も難なく上がれました。途中、猿や野良犬に案内されて歩む道中は、当時のお釈迦様の気分を味わえました。　山頂には実際に雨の日に瞑想された場所、一番弟子の阿難尊者が座られた台座にも座らせてもらえました。五月は一般の参拝者はほとんどなく、ゆっくり法要とご来光、※浄土宗常乗雲寺住職　安井隆同和尚の法話を聞くことができました。

最後に訪れたのは、『お悟りの地　ブッダガヤ』です。お釈迦様が菩提樹の下で瞑想に入られて　一週間経った八日目の朝　、明けの明星を見られてお悟りを開かれた地です。今は大きな塔が建てられていてヒンズー教徒にとっても大切な聖地だそうです。私はずっとお釈迦様はお悟りをされた後にすぐに　法を説きに発たれたと思っていましたが、お悟り後　初めの一週間は　そのまま坐してお悟りを味わい、二週間目は少し離れた小高い丘から菩提樹を眺めて過ごしたそうです。三週間目には菩提樹脇を歩かれたそうです　。その足跡には蓮の花が咲いたそうです。四週間目はまた深く瞑想に入られたそうです、五週間目にはブラフマン(梵天)が現れて　釈迦自身のお悟りを皆に説くに行くように勧めます。　それを受け自身のお悟りを他者に伝えるか否かを一週間　考えます。六週間目は近くの池の畔にある樹の下で瞑想に入ります　その時に七日間にわたる激しい風雨が降りましが、池の主の大蛇がお釈迦様を風雨から守るために巻き付き大きな頭を傘のようにして守ったそうです、そして遂に七週間目にして　自身のお悟りを吟味し真理を確信し、今後の布教を決意し長い布教の旅　、悟後の修行に向かわれたそうです。これが後の四十九日忌供養の元になったそうです。

ブッダガヤでは写真が撮れない所もありましたが、日本寺で法要と坐禅が出来たこと、大塔の下でも法要と坐禅が出来たこと、、、、たいことが有りすぎるので続きはまたそのうちに、、、。

来年二月に、『第二回インド仏跡参拝の旅～誕生の地ルンビニ、最期の地クシナガラ～』を計画しております。興味のある方は是非にご連絡ください。

7月と9月のお施餓鬼

今年も施餓鬼前には青壮年部の皆様が暑い中、草刈りや境内の掃除をしてくださいました。皆様が気持ちよくお参りできるようにとご奉仕して下さっています。大変にありがたく、そして無事に2回の施餓鬼を終えることができました。



早朝より青壮年部での清掃開始









今後の供養のトラブル等、起こさないために

よくある質問　Q&A

Q1. 親（家族）亡くなったら、まず何をすればいいですか?

葬儀会社に連絡します。同時に菩提寺(先祖代々の墓がある寺)にも連絡して下さい。菩提寺があるのに連絡せず葬儀会社だけで進めると、後の供養等トラブルになりかねません。遠方の方でもまずは菩提寺に連絡する事をお勧めします。

Q2, 家族葬ってなんですか？

家族葬とは、1990年代に東京の葬儀社が作った言葉で葬儀の作法ではありません。故人様をお見送りする小規模なお葬式の総称です。通夜、葬儀・告別式、火葬といった基本的な流れは一般的なお葬式と変わりません。費用を抑えられると思われがちですが、最終的には想定より高くなってしまうケースも少なくありません。

Q3. 墓終いをしたいけどどうすれば？

まずは、お子様や親族としっかり話し合ってから菩提寺の和尚にご相談ください。それぞれの家族に合う一番の方法で今後の案内をさせていただきます。お気軽にご連絡ください。（裏面の永代供養について参照）

Q4. 法事の時に用意する物（お寺での法要の時）

- お位牌
- お供え（和菓子や故人の方が好きだった物、果物・和菓子等）
- 野菜と1合以上のお米

（仏様へのお膳はこちらで準備しますのでその時に使います）

Q5. 法要後の御斎（食事）お寺でお願いできますか？

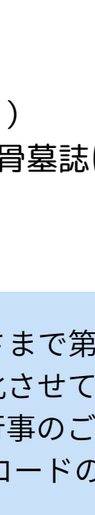
今はスタッフ勉強中の為、お寺での食事はお作り出来ません。
ですが、お弁当等の持ち込みでお寺で食事をしていただく事はできます。

詳しくは大仙寺へ
お問い合わせください
TEL 0574-43-0245

またはQRコード
LINE追加してね！

施餓鬼会　９月移行へのお願い

昨年度より実施しました参拝者や準備作業する役員への暑さ対策と町外檀家様の休日参拝の容易さを考慮して７月盆に合わせた従来の「山門施餓鬼会」から秋の彼岸へ移行する試みを本年度も継続いたします。本年度の施餓鬼申し込みでは、約４割が９月施餓鬼会参加を希望されました。人は兎角、現状維持バイアスに陥りやすく、なかなか変化することに抵抗があろうかと思います。しかしながら、いよいよ来年度は「９月施餓鬼会への一本化」を目指したいと考えております。何卒、宜しくご検討をお願い申し上げます。（編集者）



後をやってく親族がいないからどうしよう、、、

よく聞かれる2つの永代供養

最近「もうお墓をお守する子供、親族がいなくてこの先どうしようか迷っている」という質問をよく受けます。そんな時はそれぞれの家族にあった供養を一緒に考えさせていただきますのでお気軽にお問い合わせください。

●六地蔵納骨壇供養

一霊13年間35万円（永代供養観音塔👇への移行料5万円含む）

当山西の無縁塚にあります六地蔵納骨壇にて、13年を一期としてお骨とお預かりご供養致します。

朝課後、お経をお唱えします。（お彼岸に合同法要あり、案内あり）

●永代供養観音塔供養

一霊10万円 / 先祖代々30万円

朝課後、毎朝お唱えします。（お彼岸に合同法要あり、案内あり）

大仙寺西側の外にあるのでいつでもお参りしていただけます。納骨墓誌に戒名等を入れさせてもらいます。ただ納骨したお骨はその後出すことはできません。



六地蔵納骨壇

裏





永代供養観音塔



インド・妙心寺
一度は参拝に行ってみよう！



- 2月8日から7日間（インド参拝）
- 3月26日日帰り（妙心寺）

「日常を少し離れて心を澄まし、ご先祖様への報恩」代々命を繋いでくださったご先祖様に深く手を合わせに行きませんか？そして経本の中の風景も合わせてみる事ができます。凛とした空気の中でゆっくりとお参りの旅に出かけましょう。

［ 日本寺 ］　［ 霊鷲山］　［ アナンダの台座］



［ ローカル市場］　［ 日本寺で坐禅 ］　［ インドのご飯 ］

前回のインド旅



大仙寺への
お問い合わせ
TEL 0574-43-0245
またはHPへアクセス

編集長より一言

第１３号くらいから寺庭さん（二宮薫）の協力を得て、おかげさまで第１６号の発刊となりました。本通信はコストダウンを図りつつ紙質の向上、カラー化、ＡＩ活用の４コマ漫画掲載などを試みてまいりました。より読み易い紙面へ進化させて参ります。宜しくお願い致します。また、当初の本通信は役員および青壮年部の活躍を通してご参加を促進することを重視してまいりましたが、今後は広く、大仙寺行事のご案内や法要などのご案内以外に檀家様の世代交代や世帯減少によるご不明な点やご供養方法のご案内なども少し増やしていきたいと考えております。さらに上記のQRコードの大仙寺ホームページへアクセスいただければ、この紙面をお読みいただけるようにブラッシュアップに努めて参ります。　（編集長　佐藤　亙）